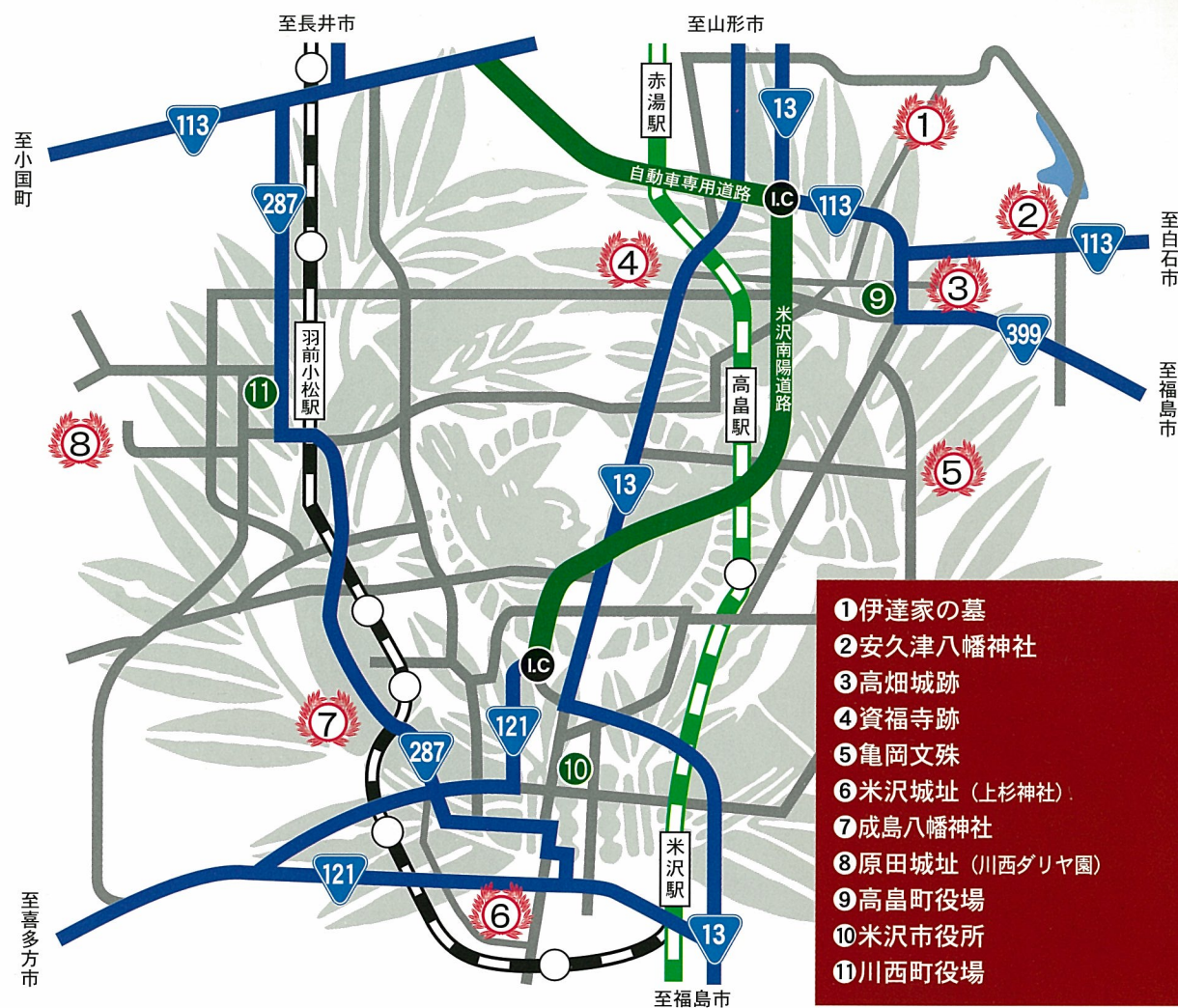


# 伊達氏ゆかりの史跡



- ①伊達家の墓
- ②安久津八幡神社
- ③高畑城跡
- ④資福寺跡
- ⑤亀岡文殊
- ⑥米沢城址(上杉神社)
- ⑦成島八幡神社
- ⑧原田城址(川西グリヤ園)
- ⑨高島町役場
- ⑩米沢市役所
- ⑪川西町役場

**⑥ 米沢城址(米沢市)**

暦仁元年(1238)長井時広の築城と伝えられ、松岬城と称した。時広は源頼朝の重臣大江広元の次男で、奥州侵攻の軍功により文治5年(1189)長井庄地頭となる。長井氏治世191年に及ぶ。

康暦2年(1380)伊達氏8代宗遠(むねとお)が、長井氏8代広房を滅ぼして長井庄を領した。15代晴宗が天文17年(1548)米沢城に移り伊達氏治世212年間の間、伊達氏の本城として奥州躍進への拠点となった。

17代政宗(貞山)はこの城で生まれ、天正19年(1591)豊臣秀吉により岩出山に移封されるまでの25年間、この地で過ごした。

**⑦ 成島八幡宮(米沢市)**

米沢市西部、鬼面川西岸の高台に鎮座する神社。

古くから、置賜郡成島荘の鎮守として崇敬をあつめ、長井氏、伊達氏、上杉氏といった歴代領主によって、改築・修理が行われてきた。

伊達政宗(17代)は、八幡神社への信仰が篤かったらしく、米沢から岩出山へ移る際に、この成島八幡宮を分霊し、岩出山城内に祀られた。

後に、政宗は仙台開府にあたって、総鎮守として大崎八幡宮を創建し、大崎地方にあった大崎八幡宮と米沢から分霊してきた成島八幡宮を合祀しました。現在、大崎八幡宮は国宝に指定されている。

ちなみに、政宗の参謀であった片倉景綱は、この成島八幡宮の神職であった父・片倉景長の次男として生まれました。

**⑧ 原田城址(川西町)**

伊達家宿老原田氏の居城。

平山城で三方が崖に囲まれ、規模は東西350m・南北100mとされ、大手は南側、西が本丸、東が二の丸で、それぞれが空堀で区切られている。

伊達家の岩出山移封まで米沢北郊の戦術的支城の役割を担った。

最後の城主、原田左馬介宗時は18歳で家督を継ぎ、伊達政宗の軍事において顕著な戦功を挙げた。豊臣秀吉の朝鮮出兵の際には伊達家臣団の一人として朝鮮半島へ渡ったが、間もなく病を患い、対馬で没した。出陣の際には馬にまたがり2m70cmという長い太刀を金の鎖を巻いて背負うなど、さすがは伊達者と言われたエピソードも残る。

宗時の二代後にあたる原田甲斐宗輔は仙台藩伊達家の家老となり、1970年のNHK大河ドラマ『権ノ木は残った』の主人公となった。

●アクセス●

|      |                |         |
|------|----------------|---------|
| ●東京駅 | 山形新幹線(2時間20分)  | ●高島駅    |
| ●仙台駅 | 仙山線(1時間)       | ●山形駅    |
| ●新潟駅 | 羽越本線(45分)      | ●米沢駅    |
| ●東京  | 東北自動車道(3時間)    | ●福島飯坂IC |
| ●仙台  | 東北自動車道(40分)    | ●白石IC   |
| ●新潟  | 日本海東北自動車道(40分) | ●荒川胎内IC |
|      |                | ●小国     |
|      |                | ●高島     |

お問合せは/(社)高島町観光協会  
〒999-2173 山形県東置賜郡高島町大字山崎200番地-1  
TEL 0238(57)3844 FAX 0238(57)4178  
高島町観光協会HP●<http://www.takahata.info>

戦国の世を駆け抜けた稀代の名将  
伊達政宗のゆかりの地「たかはた」

独眼竜と呼ばれた政宗と伊達氏の  
足跡を、まほろばの里に訪ねる



山形県 高島町

# 史跡・探訪

しせきたんぼう

## 政宗の生涯

「独眼竜」の異名で知られる、伊達政宗(17代貞山)。5歳の時右眼を疱瘡で失いましたが、乳母の喜多、守役の片倉小十郎、師匠である虎哉和尚たちのもとで成長し、18歳で家督を継ぎました。政宗時代の伊達家の勢力は、植宗・晴宗をはるかに超え、南奥州は統一へと向かったのです。天正19年(1591)、政宗25歳の時、秀吉の命令により、置賜の地を後に、岩出山(宮城県)へ移封されました。独眼竜政宗の誕生に際して、母義姫が、亀岡文殊堂の長海法師を通じて、湯殿山に向き護摩を行い政宗が誕生した、という伝説が残されています。亀岡文殊堂は、日本三文殊に数えられ、大同2年(807)、徳一上人によって開かれました。願望成就、智恵の文殊として受験シーズンなどには、全国から多くの参拝客で賑わいます。

## 略年表(米沢時代)

幼少時の伊達政宗公は、山形県高島町夏刈の資福寺にて住職であった虎哉宗乙和尚より学問を学びました。資福寺跡に隣接する場所には、政宗館や夏刈城といった館跡のなごりが残っており、後に重臣となる片倉小十郎、伊達成実らとともに少年時代を過ごしたといわれています。

永禄10年(1567年) 政宗 1歳  
出羽国米沢城に生まれる。幼名梵天丸

元亀2年(1571年) 政宗 5歳  
疱瘡(天然痘)に罹り右目を失明する。

元亀3年(1572年) 政宗 6歳  
伊達家の学問寺である資福寺にて臨済宗の虎哉宗乙禅師による教育が始められる。

天正3年(1575年) 政宗 9歳  
片倉景綱が守り役を命ぜられ側近となる。

天正5年(1577年) 政宗 11歳  
元服。藤次郎政宗と名乗る。  
2年後、三春城主 田村清顕の娘愛姫を正室とする。

天正9年(1581年) 政宗 15歳  
15歳で初陣し勝利を収める。

奥州の雄藩としての地位を築きあげた伊達家。その歴史を紐解くと、まほろばの里『高島』に出逢うことができます。

建久3年(1192)、鎌倉幕府誕生とともに、置賜の地は長井氏によって支配されていました。しかし、天授6年(1380)、伊達家8代当主 宗遠が長井氏を滅ぼし、以降14代植宗に至る162年間、屋代(高畑)が伊達家支配の拠点とされました。悠久の時の流れを経た今、ここ高島には、基礎をつくりあげた猛者達の足跡を伝える、史跡の数々に触れることができます。



亀岡文殊堂

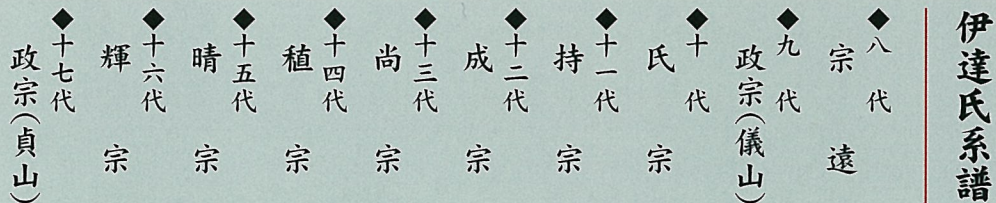
天正12年(1584年) 政宗 18歳  
18歳で家督を相続し伊達家17代を継承する。

天正13年(1585年) 政宗 19歳  
人取橋の合戦  
人取橋(福島県安達郡本宮)にて蘆名氏、佐竹氏など3万の連合軍と戦い勝利。

天正17年(1589年) 政宗 23歳  
摺上原の合戦  
摺上原(福島県耶麻郡猪苗代町)の戦いにて会津の蘆名義広、佐竹義宣の連合軍と戦い勝利。奥州の覇者となる。

天正18年(1590年) 政宗 24歳  
小田原討伐に参陣し、豊臣秀吉に従属する。

天正19年(1591年) 政宗 25歳  
豊臣秀吉より、一揆扇動の嫌疑をかけられ、玉造郡岩出城58万石に減らされ移封される。(後に岩出山城と改称した)  
伊達家代々の本領であった伊達、長井、信夫、刈田、二本松、塩松、田村を没収され、米沢城を引き払うこととなった。



伊達家より家紋使用許可済



高畑城跡

宗遠の嫡子第9代当主 政宗は、柴田、名取、宮城などへ進出し、これにより伊達氏の領国範囲が、ほぼ決まりました。屋代(高畑)が名実ともに置賜の中心城となったのです。また政宗は、応永4年(1397)に上洛し、将軍 足利義満の謁見を許されました。文武両道に優れた彼は、和歌の分野でも才能を発揮し、『新続古今集』に収められている「山家の雪」、「山家霧」は有名です。

●山家の雪 中々につづら折なる道絶えて  
雪に隣の近き山里  
●山家霧 山合の霧はさながら海に吠て  
波かと聞けば松風の音

応永12年(1405)9月、53歳で死去した儀山政宗の墓は野手倉と資福寺跡にあり、野手倉にあるお墓の左側には足利義満の生母の妹である正室、紀氏が眠っています。



安久津八幡神社

屋代(高畑)を居城に定めた宗遠は、大崎、信夫、刈田地区のほか、柴田、伊具を支配しました。また、時の権力者であった足利政権とも交流を図り、中央への貢献に務めたのです。

屋代(高畑)は、承安年間(1171〜)藤原秀衡のいとこ樋瓜五郎季衡の築城と伝えられ、形状がつり鐘に似ているため、別名を鐘ヶ城と呼ばれていました。

なぜ屋代(高畑)が拠点に？

伊達氏は、本拠地を米沢城(長井氏の居城)ではなく、高島の地を選びました。これは、高島が、赤館城(伊達氏の居城)に近く、二井宿峠を控えた要害の地であったことなど、軍事・政治の両面に適していたためです。



儀山政宗公墓所

14代植宗の時代に移ると、さらに領国体制が進展し、伊達家の悲願であった陸奥国守護職の地位を得ました。また植宗は、※1「塵介集」※2「棟役日記」※3「御段銭古帳」を成立。伊達家の基盤を固めたといえます。

しかし、15代晴宗と6年間におよぶ内乱(天文の乱)を招き、家督をわたす結果に終わりました。

伊達家では12代成宗と13代尚宗、13代尚宗と14代植宗とで父子の抗争が相継ぎ、当時の家督相続の難しさを現しています。

安久津八幡宮は、永承6年(1045)と寛治年間(1087)に源義家が安倍一族追討の折に陣を敷き、鎌倉八幡宮の分霊を祀ったと伝えられています。天文5年(1536)植宗は、安久津八幡宮の本殿寄進を行い、手厚く保護されてきました。

※1「塵介集」(じんかいしゅう):領国をまとめるための法、規律 ※2「棟役日記」(むねやくにつぎ):領内百姓屋敷への徴税規則 ※3「御段銭古帳」(ごだんせんこちょう):領内田畑への徴税規則



伊達輝宗公墓所(資福寺跡)



資福寺跡

資福寺の住職であった虎哉和尚(幼名 虎千代)は、幼少時代、住まいでの寺から聞こえる読経を全て暗誦したといわれ、仏教に強い関心を示しました。後に「心頭滅却すれば火も亦涼し」の名文句を残した臨済宗妙心寺の住持 快川和尚の門をたたき、名を虎哉と改めました。虎哉和尚と資福寺との結びつきは、16代当主輝宗が政宗の師匠に招いたことに始まり、時に虎哉和尚43歳のことでした。

資福寺は、弘安年中(1278〜87)長井氏3代時秀西規が、領内東西交流の中心である夏刈の地に、鎌倉建長寺の僧紹規を招じて建てた寺であります。この地に伊達氏が夏刈城を築き、資福寺を帰依寺、学問寺として保護しました。

現在の資福寺は、政宗の移封にともない、岩出山を経て仙台市に移動し、仙台城の鬼門を守る北山五山の一つ、臨済宗妙心寺派 資福禅寺として多くの参拝客で賑わっています。

重文  
黒漆五枚胴具足  
伊達政宗 所用  
仙台市博物館 蔵